花見幕の内などにて是を興ずるなり、人形樽の詞を轉じて、樽人形といひけるとぞ、西武撰の砂金袋明暦三年印本に、

影うつせ人形樽のかゞみ餅　康重

人形樽の名はふるくこゝに見えたり、また山岡元隣が寶藏萬治の印本、後に幸藏と名を改むの花見の事をいへる條に、こゝら行きかふわび人の、人形樽につめ懐辨當にをさめて、花はいづれの情に見つるかしらねども、とりぐ〳〵ほこりがなる顔つきも、實に春は春なれやとあり、これらにて人形まはしに用ひしことはいはざれど、人形樽の名のあかしとすべし、また桃青が俳諧次韻延寶九年撰に、

前　樂やつこかくれて風流林とよぶ　其角

附　樽に羽おりをきせてあふぎし　桃青

この句かの樽を人形として、まはすことのあかしなりけり、

樽貢進

〔令義解三賦役〕凡○中略其調副物、○中略十四丁、樽一枚、受三斗、廿一丁、樽一枚、受四斗、卅五丁、樽一枚、受五斗、

〔延喜式十五内藏〕諸國年料供進

樽伊賀、伊勢、尾張、參河、遠江、駿河、近江、美濃、若狹、加賀、丹後、播磨、紀伊、阿波、伊豫、十五箇國各二合、

〔延喜式二十三民部〕交易雜物

伊賀國中略樽二合、加二赤漆枕、以下皆同、　伊勢國中略樽二合○中略　尾張國中略樽二合○中略

右以正税交易進、其運功食並用正税、○下略

明樽問屋

〔延喜式二十四主計〕凡○中略其畿内輸雜物者、○中略一丁、○中略酒垂十口、徑一尺二寸○中略

和泉國○略註調、○中略酒垂百六口、

〔寶暦集成絲綸錄二十八〕寶暦元未年十二月